

「言葉といのち」



私たちは毎日いろいろな言葉を使って人とコミュニケーションをとっています。言葉のチョイスはその人の人柄を表します。

そして、使う言葉のトーンや伝え方なども言葉の1つとして含まれます。

発したその言葉が相手にどのような影響を与えるのかを考えながら伝える事で、言葉に命が込められるのだと思っています。

医療、看護の多くの著書にも「言葉の力」について書かれています。

在宅看護において、コミュニケーション能力は欠かせません。

ご利用者様のおかれている状況を理解して、今求められているものはどんなことなのかなど探りながら関わっていくと、その時に発する言葉が生まれてきます。

「癒される言葉」「言葉の気持ちを汲み取る」

■今関わらせていただいている M さんから、発せられた言葉（メッセージ）を共有します。

「死の瀬戸際にいる僕の気持ちをわかってもらえるだろうか」

「僕は自分がその立場になってみないとわからなかったので、よほど詳しく僕のことを知ろうとしない限りわからないと思う」

「死に物狂いで必死に生きているって、こんなことだろうか」

「正直言うと、まだ生きていきたいと言う気持ちがあるが、仕方がない・・・」

・何とも言いようのない切ない言葉を発せられた M さんですが、訪問の度に M さんスマイルに出会えます。強さと脆さ両面を見せて頂きながら「言葉といのち」について深く学んでいます。

・私たち、訪問看護で最も大切な事は、ご利用者様が発した言葉をしっかり記録に残すことです！かけがえのない時間を使って伝えてくださる命の言葉に関わるスタッフ間で共有していく事は、その方が「生きたと言う証」につながると思います。

訪問する事が、ご利用者様にとって生活の一部となっているのであれば、私たちの役割はとて大きく、そして在宅看護に携わる私たちの人間的成長が必須になることと思います。

・私自身、日々どんな言葉を使っているのか、無意識のうちに人を傷つけていないか、人に良い影響を与える言葉を使っているかなど、改めて振り返っています。

そして「言葉の持つ力」を今回改めて考える機会にしたいと思います。

ホスピタリティ溢れた看護師（人）であり続けるために・・・

🌸 寒暖差の激しい日にも頑張ってくださっている皆さんに感謝いたします。

2025年4月10日

呉 静恵

